

医療福祉・在宅看取りの地域創造会議 通信 第19号 (H26/12/18)



平素は、「医療福祉・在宅看取りの地域創造会議」へのご理解・ご協力ありがとうございます。
 なんとなく気忙しい師走となりましたが、いかがお過ごしでしょうか？
 今年の流行語大賞が「ダメよ～ダメダメ」「集団的自衛権」に決まりました。
 ノミネート50語には知らない言葉もたくさんありました。こびっと・マイルドヤンキー・ゆづ・・・。
 流行に全然ついていけないのを実感しました (´д`)
 でも「マウンティング(女子)」「塩対応」「壁ドン」「リトル本田」「昼顔」「タモロス」・・・知っている言葉もちらほら
 そうそう「2025年問題」もありました。
 個人的には「ありのまま」この言葉が大賞をとってほしかったです。皆様の予想はどうでしたか？
 今年最後の通信になりました。大変お世話になりました。
 皆様が新たな年を、元気に迎えられることをお祈りしております。
 2015年も「医療福祉・在宅看取りの地域創造会議」を、どうぞよろしくお願いいたします



第31回ワーキング会議

(12/11)

グループワークより

(研修会等への)「参加者が同じ顔ぶれになりがち」という課題が出ていますが、顔が見える関係ができたこと(多職種連携)でどんなメリットがあるのかを情報発信し、各職種が普段の活動から新たな仲間を引っ張って行くことが大切ではないか。



今後、高齢者の独居も増えるなか、介護職には「看取り」への不安も大きい。死亡から発見に至るまでに時間を要したケースについて警察での事情聴取された経験をもつ者もいる。⇒それぞれの経験が共有財産になり、事例集やマニュアル作成につながるよ。

大津市の取り組みは当初の計画通り地域リーダー(市リーダー)養成→各エリアでのリーダー養成へと広がっている

活動目標「みんなが楽で疲れない」の主旨は誰か？⇒在宅チームのメンバー。そしてその先の目標は『利用者の方・家族の方が楽で疲れない』こと。

『多職種連携は何のため？』→利用者さんのため
その大前提を常に意識しておくことが大事

多職種の集まりに参加できなくても、声や意見を届けられるとよい

参加しない人を問題視するのではなく、参加しない・しにくい人(職種)がいつでも参加できるような場を作っていくことが参加している者(地域リーダー)の役割ではないか。

ケアマネジャーは利用者さんに一番近く生活がわかっている人のはず→ケアマネジャーが動きやすい環境整備が一番大切では。

多職種連携をどのように経験していくか？
⇒教育の場では、多職種(学生)交流の試みも・・・



あ り が と う 今年一年



次第

- 1.あいさつ
- 2.自己紹介
- 3.報告・連絡事項
「滋賀の医療福祉を守り育てる県民フォーラム」の結果について
- 4.活動紹介
「多職種協働による在宅医療推進のための地域リーダーの活動
～大津市での活動状況～」
- 5.意見交換・グループワーク
※活動紹介を受けて、今後の地域リーダーの活動等についてグループで意見交換
※各グループより発表



次回ワーキンググループ会議は
1月13日(火) 18:30～
 場所は
県庁北新館5A会議室です。
 次回以降は2/12(木)・3/12(木)となっています。
 どうぞお気軽にご参加ください♪♪
 ◆・*...◆♪◆*...◆

ご意見・ご感想等は
 医療福祉・在宅看取りの地域創造会議
 運営事務局(滋賀県庁 医療福祉推進課内)
 TEL:077-528-3581
 FAX:077-528-4851
 E-mail:info@chiikisouzoukaigi-shiga.jp
 山本・橋本